

～松山市民病院 創立 60 周年記念座談会～

平成 28 年 4 月 6 日（水）、『松山市民病院創立 60 周年記念座談会—病院創立以降の病舎と故薬師寺会長を語る—』が行われました。病院創立時の木造病舎を知る嘱託職員や元職員の方が集まり、病院で保管してあった古い写真アルバムを見ながら、当時の様子を思い思いに語っていただきました。

写真中央 山本祐司院長、写真左奥より、図書室元職員 高須賀京子さん、臨床検査室 畑野一秀さん、放射線室 土屋仁志さん、施設管理課 石田広志さん、写真右奥より、看護部 北村信子さん、看護部 池田洋子さん、花本雄二事務長



～木造病舎（現在は永頼会館）について～

昭和 36 年に鉄筋コンクリート造の病院棟が道を隔てた場所に建築されたため、木造の旧病舎は管理棟として使われました。1 階には事務所と院長室、総婦長室、解剖室、更衣室、2 階には医局や病理、図書室、カルテ保管庫や薬師寺会長の部屋がありました。

当時は夏場 30℃を越えるという話題になるくらいで、連日猛暑の今では考えられない気温でした。一方で冬は水道管が凍り、バーナーであぶったこともあるほど、とても寒かったと記憶しています。図書室には夏用のクーラーしかなく、冬は丸い石油ストーブを焚いて過ごしていました。空調が効かない建物で雨漏りやすきま風などに悩まされました。

～昭和 36 年 8 月に完成した B 病棟（現在は N 棟）について～

元々、4 階まで建てる計画だったそうですが、最初は 3 階建ての建物でした。5 年後の昭和 41 年に 4 階部分が増築され、昭和 44 年には東隣に 5 階建ての建物が増築されました。

B 病棟と呼ばれていたこの病院棟は、西側が正面玄関で、詰

所の中は広く、休憩できる別室もありました。手術室は 2 階にあり下駄を履いていました。エレベーターは手動式の二重扉で古く、開閉時に指をつめたり、突然停止をして看護婦が閉じ込められりしたこともあり、利用する時は少々緊張しました。

病院の近くには、パン屋や食堂、ラーメン屋などがあり、よく行っていました。今現在も残っているのは自転車屋だけとなっています。病院と永頼会館の間の細い道路は三番町筋と同じ時期に一方通行になりました。それまで細い道での車の対面通行は大変だったと思います。

～薬師寺眞会長について～

よく病院の喫茶に入っておられたイメージがあります。井関農機の専務や南予レクリエーション都市開発会社社長、松山商工会議所会頭など、いくつもの要職に就かれて大変多忙な日々を送られており、病院に来られるのは週に 1 回くらいでした。薬師寺会長は茶道・能・書・絵画などに造詣が深く、お出しするお茶の加減にも注意を受けましたが、茶道の「一期一会」の心構えを教えてくださいましたのだと思います。



開設時の木造病舎は、のちに事務所などが入る管理棟として使用された。



上の写真と同じアングルで撮った写真
昭和 53 年 12 月に鉄筋コンクリート造に建て替えられ、現在の永頼会館が完成した。



昭和 36 年完成の B 病棟
奥は 5 階建てに増築工事中



B 病棟西側にあった正面玄関



火災（消防）訓練の様子



昭和 46（1971）年病院創立 15 周年記念式典
写真左より、薬師寺眞会長、岡本博氏、中西恒心院長、宮田信潔副院長



昭和 49（1974）年 永頼会松山市民病院
年忘れショー（三越にて）